



イベント ほとばしる エネルギーが心地いい。

ザ・フェスティバル・イン・トロン・トロンと町民花火大会

17回目を迎えた平成十四年は、五万人参加の大迫力。このフェスティバルがやってこない川南の暑い夏は終わらない。



ない。すっかり夏の風物詩である。

例年「若連協」の人たちが三カ月ほど前から企画を練り上げ、本当にアイデアが詰ったりの手づくりイベントといっている。ちなみに平成十四年は、八月二十五日に例年通り、トロン・トロン・ドーム前広場をメイン会場に盛大に行われた。十七回目の開催を記念して十七歳の人たちの誕生会を開いたり、小学生のチームレスリング大会、トラクター引き大会、ラムネの早飲み大会などユニークなものが多い。

国際演芸フェスティバルでは外国人が多数参加し、交流に花を咲かせていた。ラジオの公開録音もイベントの盛り上がり

りにひと役。そして、フェスティバルのクライマックスは町民花火大会。二千五百発もの花火が打ち上げられた。一般公募によるデザイン「アンパンマン」花火も見事に浮かび上がり、盛大な拍手と歓声が沸き起こっていた。

川南人にとって、このフェスティバルは特別なもののように、毎年、夏休みの帰省もこの時期に合わせる人が少なくないという。

子どもフェスティバル

5000人の親子連れなどで毎年賑わうこのイベントは、平成十二年にスタートしている。いまや川南の名物イベントのひとつに挙げられるだろう。平成十四年も九月二十九日にトロン・トロン・ドームとその周辺であった。食と文化がテーマの子供が主役のお祭りだけに、企画も運営も子供たちが力を発揮する。



中・高校生約三十人からなるジュニアリーダーの面々。ジュニアのど自慢大会、りんごの皮むき大会、ラムネ早飲み大会、腕相撲大会、フリーマーケットなどは、アイデアから運営まで全部担当した。

ほかにも食べ物に関する親子で体験できるもの、三十以上もの多彩なイベントが繰り広げられ、大いに盛り上がりがあった。なかでも粘土教室が印象的。「未来の川南町」をテーマに、子供たちの創造性豊かな作品が出来上がり、いまもドームに展示してある。

電飾大作戦

36万8000個のイルミネーションが冬の夜を彩る。毎年五〜六万人の人が訪れる川南の冬の風物詩。「若連協」を中心とした企画・運営によるもので、約一カ月半の期間中、週末を中心に家族連れなどで賑わう。

七回目を迎えた平成十四年は、町制施行五十周年を記念して、例年以上の盛りよう。トロン・ドーム前広場に、光の回廊(長さ三十メートル、幅三・六メートル)を作り上げ、回廊内には木製の星座などを飾り、光の森を散歩する気分を演出した。ほかにもハート型の記念撮影用イルミネーションなどが人気を呼んでいた。

商店街も趣向を凝らした「電飾作戦」で、テーマの「街に灯りを、街にやすらぎを、街に潤い」に連動して展開、活気に溢れていた。いまや、「イルミネ

ーションなら川南」といわれるほど、県内に知られたっている。

モーツァルト祭

4〜5日間の日本モーツァルト青少年管弦楽団の滞在期間中に、大小様々な音楽イベントが行われる。平成13年から始まった「川南町トロン・ドームモーツァルト祭」。

これは、全国から音楽を志す若者が集い、その技術を磨くことを目的に、毎年十二月に開催されるもので、川南町はその合宿を支援するとともに、学生や一般を対象に、学校訪問や講習会、音楽指導、また、練習風景の一部を公開するなど、他ではあまり例を見ないワークショップ型音楽イベントとして注目を集めている。



川南町にとっても、合宿という滞在期間を通して人や音楽の交流がはかれる上、合宿の最終日にはその成果として、トロン・ドームで披露されるオーケストラの生演奏を聴くことができる。もちろん地元合唱団も参加。合同演奏に拍手喝采。平成十三年の目玉は世界的なフアゴット奏者、十四年はウィーンフィルのフルート奏者を迎えての講習会や演奏会、大勢の人が感動に酔いしれた。